

2023 年度 第 1 回 6 月名大本番レベル模試 地理 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「②（①の説明として）」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

問題 I

問 6(1) 10 点

集中豪雨などによって、山地の谷筋で泥・砂礫・岩石などが水とともに高速で流下する現象。

【加点ポイント】

①<3 点> 【誘因について】

○集中豪雨／大雨／長雨／急激な融雪

②<4 点 (2 点×2)> 【土石流の内容】

○泥／砂礫／岩石／土砂／流木 →2 点

○水 →2 点

③<3 点> 【土石流の現象】

○②が高速で流下する／②が一気に下方に押し流される

△「高速で」「一気に」などの表現がない →2 点

問 6(2) 10 点

近年、郊外における都市化が進行し、開発の遅れていた土石流の危険性が高い山麓の傾斜地などが整備され、住宅地として売り出され、多くの人々が居住するようになったため。

【加点ポイント】

①<2 点> 【人口分布などの変化】

○都市化の進行／都市への人口集中／農村から都市への人口移動

②<2 点> 【①の影響】

○土石流の危険性が高い地域も居住地となった

③<6 点 (3 点×2)> 【②の背景】

○郊外の実開発が進んだ／郊外に多くの新興住宅地ができた

○平坦地（都心部）での住宅供給が難しくなった／平坦地の住宅が高騰した

○山麓の傾斜地（山間部／丘陵地）などが住宅地となった

} 1 つ 3 点 6 点まで

問 7 違い 12 点

アは、大雨や地震を誘因とするため池の決壊による洪水の被害範囲で傾斜地に広がっている。イは、大雨を誘因とする東西に流れる河川の氾濫による洪水の被害範囲で低地に広がっている。

(次ページに続く)

【加点ポイント】

i) アについて (6 点)

①<2 点> 【洪水の直接原因】

○ため池の決壊/池の水の流出

②<2 点 (1 点×2) > 【洪水の誘因】

○大雨/集中豪雨/長雨 →1 点

○地震 →1 点

③<2 点> 【洪水の被害範囲】

○傾斜地/扇状地

ii) イについて (6 点)

①<2 点> 【洪水の直接原因】

○河川の氾濫/河川の堤防決壊/河川の越水

②<2 点> 【洪水の誘因】

○大雨/集中豪雨/長雨

③<2 点> 【洪水の被害範囲】

○低地/河川沿い/氾濫原/後背湿地

問題Ⅱ

問 2③ ○第一次石油危機/第一次オイルショック/第一次石油ショック →2 点

△「石油危機/オイルショック/石油ショック」のみ →1 点

問 3 理由 6 点

技術開発に力を入れており、研究費の対 GDP 比が高い。しかし、先端技術産業が成長した時期は欧米や日本より遅いため、それらの企業への知的財産使用料の支払額が、受取額を上回る。

【加点ポイント】

★問 1「q 国：韓国」と問 3「q 国：ア」の両方の正解を加点の前提とする

①<2 点> 【表 1 の特徴 1】

○研究費の対 GDP 比が高い

②<1 点> 【①の背景】

○技術開発に力を入れている/ICT (情報通信技術) の開発が近年進んでいる

③<2 点> 【表 1 の特徴 2】

○知的財産使用料の支払額が受取額を上回る/知的財産使用料が赤字である

／知的財産使用料が支払超過である

④<1 点> 【①の背景】

○技術開発の成長時期が欧米 (日本) より遅い/韓国より先に欧米 (日本) の技術開発が進んだ

問 4 7 点

先端技術産業の製品は軽薄短小かつ高価であるため、大型船舶よりも航空機や自動車での輸送に向く。よって、農村部に地方空港や高速道路が建設されると、その付近に工場が進出した。

【加点ポイント】

★問 1 「p 国：日本」の正解を加点の前提とする

①<3 点 (1 点+2 点)> 【先端技術産業の製品の特徴】

- 軽薄短小／軽い／小さい →1 点
- 高価である／価格が高い／高付加価値 →2 点

②<2 点 (1 点×2)> 【先端技術産業の製品の輸送の特徴】

- 航空機での輸送に向く →1 点
- 自動車での輸送に向く →1 点

③<4 点 (2 点×2)> 【農村部での立地条件の変化】

- 空港が建設 (整備) された →2 点
 - 高速道路が建設 (整備) された／高速道路のインターチェンジが開設された→2 点
 - △空港の近く (に工場ができた) →1 点
 - △高速道路の近く (に工場ができた) →1 点
- } 「立地条件の変化」に触れていないので△1 点

問 5 7 点

日本の一方的な貿易黒字が欧米の企業経営や雇用を悪化させ、貿易摩擦が深刻化した。また、日本からの輸出に不利な円高が進んだ。よって、欧米での現地生産を増やし、輸出を減らす必要が生じた。

【加点ポイント】

★問 1 「p 国：日本」の正解を加点の前提とする

①<6 点 (3 点×2)> 【生産拠点移転の背景】

- 日本の一方的な貿易黒字であった／日本の自動車の輸出超過が続いた
／貿易摩擦が深刻化した
- 円高

②<1 点> 【①の影響】

- 現地生産の必要が生じた／欧米向けの自動車を現地で生産するようになった

問 6 7 点

※ 【指定語句】 インフラ 消費市場 組立労働力 3 つ全て 下線付き で使用

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。
下線の付け忘れは、複数あっても「1 問につき 1 点」のみ減点する。

西部大開発でインフラの整備が進んだ。また、人口の多い優れた消費市場である。さらに、沿海部より経済発展が遅れているため、低賃金の組立労働力を豊富に得られる。以上のことから、工場の進出が増えた。

【加点ポイント】

①<1 点> 【スーチョワン盆地の状況】

○インフラの整備が進んだ

②<2 点> 【①の背景】

○西部大開発

③<4 点 (2 点×2)> 【スーチョワン盆地の利点】

○人口の多い消費市場である／大消費市場である →2 点

(△「消費市場である」のみ →1 点)

○低賃金の組立労働力が豊富／多くの組立労働力が必要だが沿海部より低賃金 →2 点

(△「組立労働力が豊富」のみ →1 点)

問 7 7 点

カナダ楕状地で鉄鉱石、古期造山帯のアパラチア山脈の周辺で石炭が豊富に産出する。また、セントローレンス川によって大西洋とも結ばれる五大湖の水運を利用し、それらの資源や鉄鋼を輸送できる。

【加点ポイント】

①<4 点 (2 点×2)> 【原料について】

○カナダ楕状地の鉄鉱石／カナダ楕状地のメサビ鉄山 →2 点

(△「近くで鉄鉱石が産出する」のみ →1 点)

○アパラチア山脈の石炭 →2 点

(△「近くで石炭が産出する」のみ →1 点)

②<3 点 (1 点×3)> 【交通について】

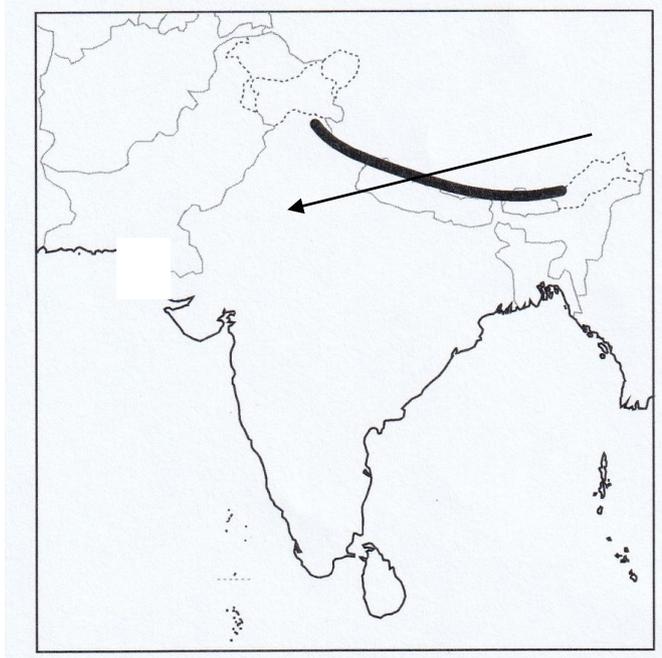
○水上交通が利用できる／水運が便利／水運で大西洋と結ばれる →1 点

○五大湖 (の水運) →1 点

○セントローレンス川 (の水運) →1 点

問題Ⅲ (配点 70 点)

問 1 【加点ポイント】



ヒマラヤ山脈 (太線で描画)
概ね左の枠内であれば 2 点加点

インダス川河口 (●で描画)
パキスタン領土内で
左の範囲内であれば 2 点加点

問 2 10 点

環礁をはじめとするサンゴ礁からなるモルディブは、その美しい景観を生かした観光業が発達している。しかし、平均標高が海面に近く温暖化による海面上昇によって水没の危機にある。

【加点ポイント】

①<1 点> 【A の国名】

○モルディブ / モルデイブ / モルジブ

②<4 点 (2 点×2)> 【A の自然環境】

○サンゴ礁からなる / 環礁が発達 →2 点

○平均標高が海面に近い / 標高が極めて低い / 海拔が低い →2 点

③<2 点> 【主要産業】

○観光業

④<2 点> 【環境問題】

○海面上昇による水没 / 海面上昇による島 (国土) の消滅

△「水没 (消滅)」のみ →1 点

⑤<1 点> 【④の要因】

○地球温暖化 / 温暖化

問 3 8 点

夏季に吹く海洋からの湿った南西季節風が西ガーツ山脈に沿って上昇し地形性降雨が見られるため。

【加点ポイント】

①<2 点> 【多雨の季節】

○夏季／夏／高日季

②<6 点 (3 点×2) > 【①に多雨の理由】

○南西季節風 →3 点

(△「季節風」「海からの風」「南西風」のみ →2 点)

(×風向が違う)

○西ガーツ山脈に沿って上昇して雨が降る／西ガーツ山脈にぶつかって雨になる
／西ガーツ山脈により地形性降雨となる

(△山脈名なし「山脈にぶつかって雨が降る」のみ →2 点)

問 4(1) 6 点

C のパンジャブ地方では、河川や地下水を利用した灌漑を行い、小麦や綿花などが栽培されている。

【加点ポイント】

①<2 点> 【C の地方名】

○パンジャブ地方／パンジャーブ地方 (※「地方」の有無は問わない)

②<2 点> 【水利用の状況】

○灌漑を行う／河川水を用いる／地下水を用いる

③<2 点> 【作物名】

○小麦／綿花

問 4(2) 6 点

ガンジスデルタからなる低湿な D の地域では、雨季にあたる 5 月から 10 月にかけて国土の大部分が水没あるいは洪水の影響を受け収穫が困難なため。

【加点ポイント】

①<2 点> 【地形の特徴】

○低湿／標高が低い／低平地／三角州 (デルタ) ／ガンジスデルタ／河口部

②<2 点> 【5 月から 10 月にかけての気候】

○雨季にあたる／熱帯低気圧 (サイクロン) が襲来する

③<2 点> 【5 月から 10 月にかけて生産量が低い理由】

○ (D の地域は) 水没の影響を受ける／洪水の影響を受ける／高潮の影響を受ける

問 5(1) 12 点

a のムンバイではデカン高原で生産される綿花を利用した綿工業が、b のコルカタではガンジスデルタで生産されるジュートを利用したジュート工業が盛んである。

【加点ポイント】

i) a について (6 点)

①<2 点> 【都市名】

○ムンバイ

△ボンベイ (旧名称) →1 点

②<2 点> 【盛んな繊維工業】

○綿工業／綿織物工業／綿糸工業

③<2 点> 【②の背景】

○デカン高原で綿花が栽培される

ii) b について (6 点)

④<2 点> 【都市名】

○コルカタ

△カルカッタ (旧名称) →1 点

⑤<2 点> 【盛んな繊維工業】

○ジュート工業

⑥<2 点> 【⑤の背景】

○ガンジスデルタ (ガンジス川下流域) でジュートが栽培される

△「ガンジス (川)」なし →1 点

問 5(2) 8 点

c のジャムシェドプルでは、付近に立地するシングブーム鉄山やダモダル炭田で産出する資源を結びつけて鉄鋼業が発達した。

【加点ポイント】

①<2 点> 【都市名】

○ジャムシェドプル／ジャムシェドプール／ジャムシェードプル

②<4 点 (2 点×2) >

○シングブーム鉄山／シングブームの鉄鉱石

(△「鉄山／鉄鉱石」のみ →1 点)

○ダモダル炭田／ダモダルの石炭

(△「炭田／石炭」のみ →1 点)

③<2 点> 【鉄鋼業立地の特徴】

○C の付近で②を産出する／原料立地型である／原料指向型の立地

問 5(3) 10 点

インドでは伝統的に理工系教育が重視され、イギリスによる植民地支配の影響で英語話者が多いため、外国企業が安価で優秀な人材の獲得を念頭に進出した。また、アメリカ合衆国との時差を生かし連続したソフトウェア開発が可能であるため ICT 産業が発達し、d のベンガルールはその中心都市となっている。

【加点ポイント】

①<2 点> 【d の都市名】

○ベンガルール／バンガロール

②<8 点 (2 点×4) > 【ICT 産業発達の背景】

○理工系教育が重視された／理数系教育に力を入れている／理系に強い人材が豊富 →2 点

○英語の話者が多い／英語が通じやすい／英語が準公用語である →2 点

○アメリカ合衆国との時差を生かせる／アメリカ合衆国と昼夜が逆である
／アメリカ合衆国と約 12 時間の時差がある →2 点

○連続したソフトウェア開発が可能／アメリカ合衆国の夜間に業務が可能 →2 点

問 7 4 点

※ 【指定語句】 自由化 下線付きで使用

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。
下線の付け忘れは、複数あっても「1 問につき 1 点」のみ減点する。

経済の自由化が進み、また科学技術の進歩によりカースト制にはない職業が生まれ、それまででは見られなかった異なるカースト同士が同じ職場で働く場面が見られるようになった。

【加点ポイント】

①<1 点> 【カースト制度の影響縮小の背景】

○経済の自由化／経済自由化政策に転換した

×貿易の自由化

②<1 点> 【①の影響】

○科学技術の進歩／外資の導入／外国企業の進出／新しい産業の創出

③<2 点> 【②とカースト制の関係】

○カースト制に含まれない職業が生まれた／ジャーティと無関係な職場ができた

／従来は存在しなかった業種はカースト制の対象外である

／新しい産業により職業の選択が自由化されることにつながる